

(技術士事務所 稲葉 IT ガバナンス研究所 脱炭素 DX モニタリング)

第12号：2025年6月16日（月）～ 2025年6月22日（日）報道分

週刊 脱炭素 DX ニュースウォッチ 2025（日経 XTech 編）の第 12 号を配信いたします。

<目次>

- ☐ 6/16 (月)
- ☐ 6/17 (火)
- ☐ 6/18 (水)
- ☐ 6/19 (木)
- ☐ 6/20 (金)
- ☐ 6/21 (土)
- ☐ 6/22 (日)

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03214/061300010/>

三菱ふそうトラック・バスと日野自動車は、2026 年 4 月から経営統合し、商用車の共同開発を進めます。新会社は Daimler Truck とトヨタが各 25%を出資し、東京証券取引所に上場予定です。脱炭素化に向け、電動化や水素技術、自動運転技術の開発を加速させ、スケールメリットを活用してコスト削減を図ります。トヨタは水素燃料電池、Daimler Truck は大型商用車技術で強みを持ち、CASE 技術全般でも協力を深めます。物流需要増やドライバー不足への対応も統合の重要な狙いです。

[目次へ](#)

□ 6/18 (水)

該当記事なし

[目次へ](#)

□ 6/19 (木)

【6/19・日経 XT】太陽電池シールが都市を覆う ペロブスカイト太陽電池、薄型軽量では日本メーカーに勝機 第 2 部：次世代太陽電池 野澤 哲生 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/ne/18/00130/00002/>

ペロブスカイト太陽電池は日本発の薄型軽量技術で、変換効率は結晶 Si 並みに向上しましたが、耐久性との両立が課題です。積水化学は 10 年耐久のフレキシブル型を 2025 年に事業化予定で、東芝 ESS も高効率モジュールを開発中です。一方、中国勢はガラス基板中心に量産を急拡大していますが、耐久性情報は乏しく課題が残ります。日本は液晶技術応用の封止材で優位性を狙いますが、コスト低減には量産拡大が不可欠です。

【6/19・日経 XT】Emerging Tech インタビュー ロボや半導体に軸足、「改良主義」から脱却 千々岩 敏彦氏（住友重機械工業 取締役専務執行役員技術本部長） 大下 淳一 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/ne/18/00007/00295/>

住友重機械工業は、ロボット・半導体・医療機器・環境エネルギーの 4 分野に重点投資し、2030 年に営業利益 2.4 倍を目指します。ロボティクスでは自律型ショベルや壁面走行ロボットを開発し、省人化や自動化を推進します。半導体ではイオン注入とレーザーアニール装置の統合で競争力を強化し、医療では陽子線治療の次世代技術「フラッシュ治療」や BNCT の対象拡大を進めます。環境分野では液化空気エネルギー貯蔵（LAES）やカーボンネガティブ技術の開発に注力しています。社外研究機関との連携や先を読む開発姿勢も重視しています。

【6/19・日経 XT】太陽電池シールが都市を覆う 屋根と壁の太陽光パネル、国内電力消費量の 1.7 倍を発電 第 1 部：導入可能量 野澤 哲生 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/ne/18/00130/00001/>

日本ではメガソーラーの適地が減少する中、建物の屋根や壁面への薄型軽量太陽電池の設置が注目されています。ペロブスカイトなど次世代太陽電池は軽量で柔軟性があり、耐震基準を気にせず設置可能です。屋根だけで 452GW、壁面を含めると最大 1537GW の導入が可能と試算され、日本の消費電力の約 1.7 倍に相当します。東西壁面は発電量の季節変動も少なく、需要ピークに合致しやすい利点もあります。営農型発電や耕作放棄地活用も期待され、今後はペロブスカイト、有機薄膜、薄型結晶 Si、カルコパイライトの 4 技術が競い合う見通しです。

【6/19・日経 XT】ニュース解説 日本製鉄、US スチール買収完了 橋本会長「2 兆円は極めて合理的」 高市 清治 日経クロステック／日経ものづくり

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/10795/>

